

平成24年度に実施した一関市が管理する市道橋の点検結果についてお知らせします。

1. 目的

一関市が管理する市道橋は、小規模な橋梁を含め現在1,337橋ありますが、これらの多くが高度経済成長期以降に建設され、今後建設後50年を経過しようとする橋梁が急速に増加します。

こうしたなか、従来の「対症療法的な維持管理」から「予防保全的な維持管理」へ転換することにより、今後の修繕および架け替えに要するライフサイクルコストを縮減するため、「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な修繕工事を進める取り組みを行っています。

2. 平成24年度の取り組み

計画策定に必要な橋梁の損傷状況を把握するため、橋梁点検を実施しました。

橋長15m未満の橋梁1006橋のうち、一関地域にある319橋を点検
橋長15m以上の橋梁で、平成23年度までに完成した2橋を点検

3. 点検橋梁の諸元内訳

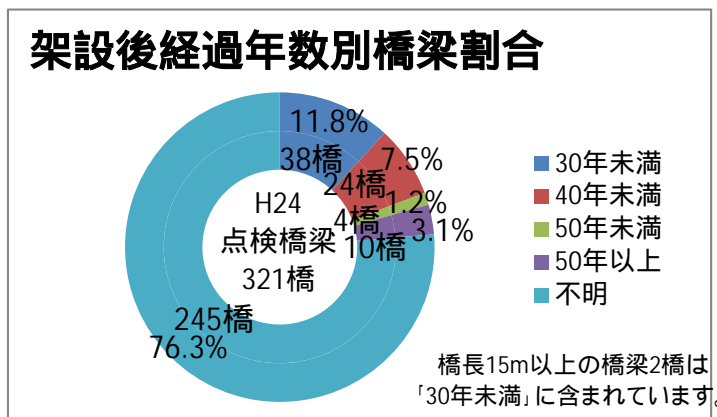
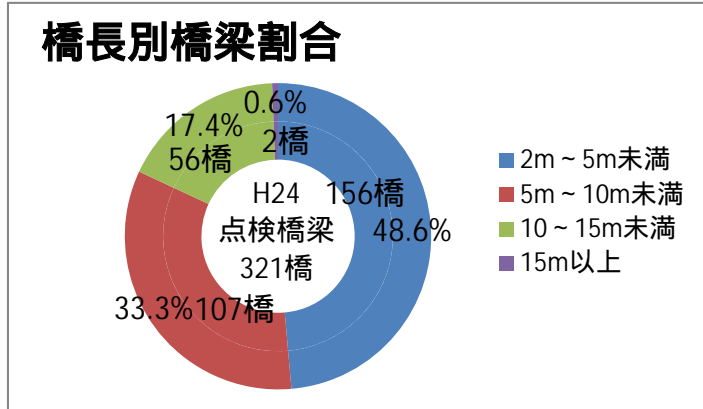
点検した橋梁の諸元内訳は以下のとおりです。

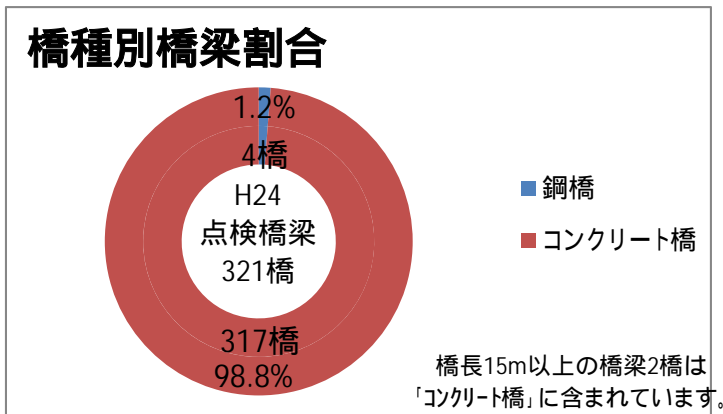
15m未満の橋梁では、ほぼ半数が橋長5m未満の橋梁となっています。

15m未満の橋梁は、架設当時の設計資料が存在せず供用年数不明の橋梁が大半を占めますが、架設後30年以上経過していると推定されます。

橋長15m未満の橋梁では、橋種はほとんどがコンクリート橋で、鋼橋は4橋となっています。
(橋長15m以上の2橋はコンクリート橋です。)

図 - 1 平成24年度点検橋梁の内訳





4. 点検結果の概況と対応

コンクリート橋の主桁や床版および下部工に一部鉄筋露出、ひびわれが見られますが、現状では構造的に支障ありません。

鋼橋は軽微な表面錆や一部変形等の損傷が見受けられましたが、健全な状態を維持しています。

大きく損傷している部材や今後損傷が拡大する可能性がある部材については、早急に修繕を実施していきます。

表 - 1 点検橋梁の損傷内容

部材	損傷種類	橋梁数	割合	
主桁	鋼橋	腐食	0	0.0%
		亀裂 緩み・脱落 破断	0	0.0%
	コンクリート橋	ひびわれ	1	0.3%
		鉄筋露出	42	13.1%
床版	腐食	0	0.0%	
	鉄筋露出	5	1.6%	
	ひびわれ	0	0.0%	
その他 上部工	防護柵	亀裂、破断	1	0.3%
	地覆	ひびわれ	0	0.0%
		鉄筋露出	10	3.1%
	路面	凸凹	2	0.6%
伸縮部	凸凹	0	0.0%	
下部工	腐食	0	0.0%	
	ひびわれ	1	0.3%	
	鉄筋露出	12	3.7%	
基礎	変状	3	0.9%	
支承	腐食	0	0.0%	
	機能障害	0	0.0%	

H24点検橋梁数 321橋

5. 損傷事例(主に多く見受けられた損傷)



主桁の鉄筋露出



床版の鉄筋露出



下部工(豎壁)のひびわれ



基礎の洗堀(河床低下)



地覆部の破損、鉄筋露出

6. 今後の取組み

引き続き橋長15m未満の橋梁点検を進めます。

橋長15m未満の橋梁長寿命化修繕計画を策定し、維持管理を実施していきます。